

出生数が2年連続で増加

～平成19年住民基本台帳に基づく人口～

今号の特集では、福岡市における平成19年9月末現在の住民基本台帳に基づく人口及び平成19年の人口動態を紹介します。

1世帯当たり人員は、減少が続いています。
(表1、図1)

1. 住民基本台帳に基づく人口

(1) 概要

人口は増加するも小世帯化進む

住民基本台帳に基づく平成19年9月末現在の福岡市の人口は1,372,840人で、前年(平成18年9月末現在)に比べ11,780人増加し、増加率は0.9%となっています。

世帯数は642,514世帯で、前年に比べ11,648世帯の増加、増加率1.8%となっています。

性別に見ると、男性は652,935人で、前年比4,548人(増加率0.7%)の増加、女性は719,905人で、前年比7,232人(同1.0%)の増加となっています。女性を100としたときの男性の割合を示す「性比」は、年々下降を続け、0.3ポイント下降し、90.7となっています。

1世帯当たり人員は2.14人で、前年比0.02人の減少となっています。毎年、人口、世帯数ともに増加を続けていますが、人口の伸びに比べて世帯数の伸びが大きいため、

「住民基本台帳に基づく人口」とは…

「住民基本台帳に基づく人口」とは、福岡市に住民登録をしている人を集計したもので、外国人を含みません。

また、毎月1日現在で公表している「推計人口」とは、平成17年国勢調査人口に、毎月の住民基本台帳人口と外国人登録人口の異動を加減したものです。

図1 人口及び1世帯当たり人員の推移

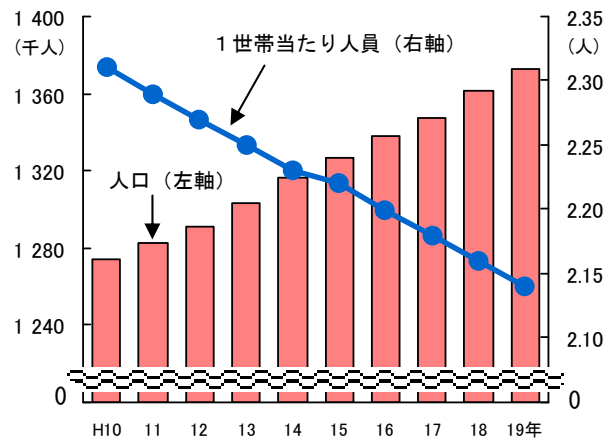


表1 世帯数,人口等の推移

	世帯数		人口		男	女	性比	1世帯当たり人員
	前年比		前年比					
	世帯	%	人	%	人	人		人
平成10年	551 077	2.0	1 273 833	0.9	613 488	660 345	92.9	2.31
11年	560 143	1.6	1 282 580	0.7	616 690	665 890	92.6	2.29
12年	569 340	1.6	1 291 542	0.7	619 940	671 602	92.3	2.27
13年	579 166	1.7	1 303 253	0.9	624 601	678 652	92.0	2.25
14年	589 349	1.8	1 316 222	1.0	630 069	686 153	91.8	2.23
15年	598 954	1.6	1 327 099	0.8	634 863	692 236	91.7	2.22
16年	608 510	1.6	1 337 576	0.8	639 168	698 408	91.5	2.20
17年	618 034	1.6	1 347 823	0.8	642 842	704 981	91.2	2.18
18年	630 866	2.1	1 361 060	1.0	648 387	712 673	91.0	2.16
平成19年	642 514	1.8	1 372 840	0.9	652 935	719 905	90.7	2.14

各年9月末現在

(2) 行政区別人口

東区と博多区で大きく増加

行政区別に見ると、7区の中で東区が人口、世帯数ともに最も多く、人口は269,609人、世帯数は120,790世帯となっています。

人口、世帯数ともに最も少ない城南区は、人口121,330人、世帯数55,870世帯で、東区は人口、世帯数ともに城南区の2倍を超えています。

平成18年に比べ、世帯数はすべての区で増加しており、人口は、6区で増加していますが、南区は243人減とわずかに減少しています。

人口の増加が大きいのは、東区と博多区で、東区が4,443人増加、博多区が2,839人増加と、この2つの区で福岡市全体の増加分の62%を占めています。

性比を見ると、中央区が79.1と他の区に比べて女性の割合が高くなっているのに対し、博多区は95.2、東区は94.9と他の区に比べ男性の割合が高くなっています。

1世帯当たり人員を見ると、最も多いの

は西区の2.44人で、以下、早良区(2.34人)、東区(2.23人)と続き、都心部に位置する中央区(1.78人)と博多区(1.85人)は、福岡市全体(2.14人)を下回っています。(表2)

(3) 年齢別人口

65歳以上が増加し16.4%に

年齢別の構成比を見ると、福岡市全体では0～14歳の「年少人口」の構成比は14.0%で、平成18年と同じ割合となっています。

しかし、15～64歳の「生産年齢人口」は69.6%で、平成18年に比べ0.5ポイント減少し、また、65歳以上の「老年人口」は16.4%で、平成18年に比べ0.5ポイント増加しており、また少し高齢化が進んでいます。

行政区別に見ると、すべての区において老年人口の割合が年少人口の割合を上回っている中、中央区は生産年齢人口の割合が7区の中で最も高く、年少人口と老年人口の割合が最も低くなっています。これと

表2 行政区別世帯数及び人口

	平成18年		平成19年						各年9月末現在			
	世帯数	人口	世帯数	人口	性別		性比	1世帯当たり人員	増減		人口	前年比
					男	女			世帯数	%		
福岡市	630 866	1 361 060	642 514	1 372 840	652 935	719 905	90.7	2.14	11 648	1.8	11 780	0.9
東区	117 609	265 166	120 790	269 609	131 299	138 310	94.9	2.23	3 181	2.7	4 443	1.7
博多区	97 993	183 748	100 962	186 587	91 016	95 571	95.2	1.85	2 969	3.0	2 839	1.5
中央区	88 225	158 540	89 961	160 428	70 845	89 583	79.1	1.78	1 736	2.0	1 888	1.2
南区	109 651	242 776	110 309	242 533	114 512	128 021	89.4	2.20	658	0.6	△ 243	△ 0.1
城南区	55 436	120 970	55 870	121 330	58 118	63 212	91.9	2.17	434	0.8	360	0.3
早良区	88 329	208 178	89 461	208 901	99 359	109 542	90.7	2.34	1 132	1.3	723	0.3
西区	73 623	181 682	75 161	183 452	87 786	95 666	91.8	2.44	1 538	2.1	1 770	1.0

表3 年齢別(3区分)人口

	平成19年9月末現在								
	福岡市	東区	博多区	中央区	南区	城南区	早良区	西区	
総数	1 372 840	269 609	186 587	160 428	242 533	121 330	208 901	183 452	
0～14歳	192 029	39 914	22 817	17 875	33 872	16 545	31 781	29 225	
15～64歳	956 167	185 455	134 806	118 194	167 453	84 064	143 276	122 919	
65歳以上	224 644	44 240	28 964	24 359	41 208	20 721	33 844	31 308	
構成比(%)									
0～14歳	14.0	14.8	12.2	11.1	14.0	13.6	15.2	15.9	
15～64歳	69.6	68.8	72.2	73.7	69.0	69.3	68.6	67.0	
65歳以上	16.4	16.4	15.5	15.2	17.0	17.1	16.2	17.1	

は対照的に、西区は年少人口と老年人口の割合が最も高く、生産年齢人口の割合が最も低くなっています。(表3)

(4) 世帯員数別世帯数

世帯の44.0%が1人世帯

世帯員数別に世帯数を見ると、福岡市全体では、1人世帯の割合が44.0%と平成18年と比べ0.5ポイント増加しています。

また、2人世帯の割合は22.7%（平成18年に比べ0.1ポイント増加）で、市内のほぼ3分の2の世帯が2人以下の世帯ということになります。

4人以上の世帯の割合は17.8%で、平成18年に比べ0.6ポイント減少しています。

行政区別に見ると、中央区と博多区は1人世帯の割合が高く、4人以上世帯の割合が低くなっています。

これとは対照的に、西区と早良区は4人以上世帯の割合が高く、1人世帯の割合が低くなっています。

年齢別と併せて見ると、都心部では若い人の1人世帯が多く、周縁部では子供や老人を含めた家族構成の世帯が多いと考えられます。(表4、図2)

(5) 小学校区別人口

平尾校区の人口が2万人を超える

小学校通学区域別に見ると、人口が最も多いのは、平尾校区（中央区）の20,242人で、以下、那珂校区（博多区）19,135人、博多校区（博多区）17,011人、香住丘校区（東区）16,709人、宮竹校区（南区、博多

区）15,718人と続きます。

人口が最も少ないのは、曲渕校区（早良区）の200人で、次いで小呂校区（西区）214人、勝馬校区（東区）311人となっています。

世帯数は、平尾校区（中央区）10,974世帯、博多校区（博多区）10,905世帯、警固校区（中央区）9,286世帯、那珂校区（博多区）9,086世帯、春吉校区（博多区）8,036世帯の順となっています。(表5)

図2 世帯員数別世帯数

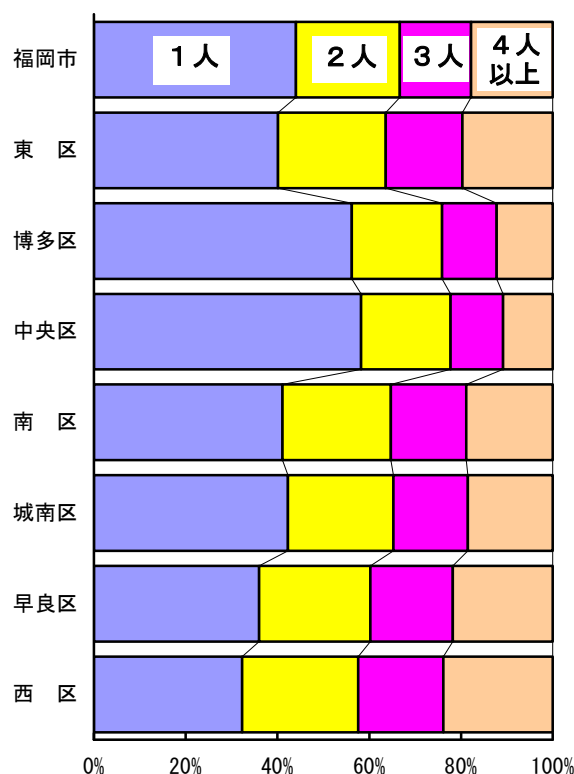


表4 世帯員数別世帯数

平成19年9月末現在

	世帯数	世帯人員(世帯)							構成比(%)			
		1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人以上	1人	2人	3人	4人以上
福岡市	642 514	282 894	145 624	99 637	81 353	26 019	5 252	1 735	44.0	22.7	15.5	17.8
東区	120 790	48 443	28 442	20 138	16 810	5 535	1 097	325	40.1	23.5	16.7	19.7
博多区	100 962	56 687	19 938	11 985	8 809	2 737	606	200	56.1	19.7	11.9	12.2
中央区	89 961	52 362	17 569	10 320	7 228	2 008	356	118	58.2	19.5	11.5	10.8
南区	110 309	45 317	26 113	18 071	14 815	4 803	911	279	41.1	23.7	16.4	18.9
城南区	55 870	23 640	12 848	9 029	7 483	2 365	412	93	42.3	23.0	16.2	18.5
早良区	89 461	32 164	21 700	16 084	14 023	4 342	854	294	36.0	24.3	18.0	21.8
西区	75 161	24 281	19 014	14 010	12 185	4 229	1 016	426	32.3	25.3	18.6	23.8

表5 福岡市小学校区別世帯数及び人口

平成19年9月末現在

小学校区	世帯数	人口	小学校区	世帯数	人口	小学校区	世帯数	人口
福岡市	642 514	1 372 840	春吉	8 036	10 806	原西	4 785	11 046
東区	120 790	269 609	草々江	6 687	13 077	原北	3 124	7 769
馬出	4 938	8 319	平尾	10 974	20 242	飯倉	4 320	9 815
筥松	6 447	11 757	高宮	7 151	10 768	賀茂	4 339	9 821
箱崎	6 619	11 832	赤坂	5 905	10 540	有田	4 343	10 581
香椎	5 028	10 528	南当仁	7 776	14 885	野芥	4 932	11 790
多々良	6 165	13 493	笹丘	5 142	11 091	大原	3 910	8 532
名島	6 132	14 179	舞鶴	4 051	6 329	四箇田	3 488	8 687
香住丘	8 022	16 709	小笹	6 276	14 842	飯原	2 977	7 154
和白	4 603	10 990	福浜	2 808	5 951	有住	2 479	5 101
千早	2 735	6 474	鳥飼 *	313	687	田村	3 843	9 521
城浜	2 432	4 311	南区	110 309	242 533	飯倉中央	2 265	5 382
若宮	4 310	9 901	三宅	7 698	15 631	小田部	3 408	9 268
勝馬	104	311	花畑	3 863	9 468	百道浜	2 866	7 465
志賀島	731	1 879	玉川	7 626	14 121	脇山	964	2 616
西戸崎	2 493	5 867	西高宮	7 460	15 669	内野	2 621	6 891
美和台	6 373	15 684	日佐	2 728	6 591	曲淵	72	200
八田	2 948	7 040	宮竹 *	6 084	12 216	入部	2 834	7 456
和白東	5 171	12 394	大楠	5 908	9 176	早良	1 525	3 940
舞松原	3 920	9 774	若久	4 715	10 594	西区	75 161	183 452
香椎東	5 394	13 327	老司	3 679	8 782	姪浜	6 314	13 892
青葉	4 527	12 601	長住	3 594	8 632	荅岐	5 706	15 456
奈多	4 008	9 419	筑紫丘	4 448	9 476	能古	346	767
香椎浜	2 297	5 597	西花畑	4 967	12 169	内浜	7 230	14 916
香椎下原	6 137	13 036	弥永	3 150	7 076	金武	1 505	4 401
千早西	3 129	7 163	東花畑	3 905	9 173	下山門	3 592	8 883
東箱崎	3 015	6 541	長丘	4 047	10 719	荅岐南	3 864	10 069
香陵	1 756	4 886	西長住 *	1 799	4 216	西陵	2 724	5 972
松島	7 311	15 438	弥永西	3 474	8 516	荅岐東	2 269	5 177
三苦	3 574	8 758	東若久	3 153	7 326	石丸	4 588	11 716
照葉	471	1 401	鶴田	2 912	7 522	愛宕	5 306	11 873
博多区	100 962	186 587	野多目	4 599	11 674	福重	3 451	8 070
博多	10 905	17 011	高木	4 203	8 203	城原	3 144	8 050
住吉	4 948	6 924	大池	3 528	8 222	愛宕浜	2 440	7 007
堅粕	5 747	8 535	塩原	5 825	10 541	姪北	3 308	6 995
千代	5 579	8 302	柏原	3 369	9 045	今宿	4 582	11 502
吉塚	4 915	9 132	横手	3 575	7 775	今津	1 469	3 285
東住吉	4 946	6 950	城南区	55 870	121 330	周船寺	4 824	12 532
席田	2 858	6 241	西長住 *	811	2 013	元岡	3 750	9 920
月隈	3 538	7 685	長尾	5 973	13 182	北崎	560	1 719
春住	4 848	7 895	鳥飼 *	3 814	8 539	北崎小西浦分校	340	1 128
板付	6 334	13 754	別府	7 395	15 082	玄界	225	583
那珂	9 086	19 135	七隈	6 134	12 453	小呂	65	214
那珂南	6 590	12 643	堤	4 325	10 582	玄洋	3 559	9 325
東光	4 214	7 256	城南	6 355	14 039	複数区にまたがる小学校区の合算		
東吉塚	4 976	9 440	金山	3 802	7 596	宮竹	7 633	15 718
美野島	5 753	9 766	片江	5 843	12 010	西長住	2 610	6 229
板付北	3 269	7 662	南片江	3 619	8 545	鳥飼	4 127	9 226
東月隈	3 459	8 432	田島	4 999	11 172			
三筑	5 329	11 288	堤丘	2 800	6 117			
弥生	2 119	5 034	早良区	89 461	208 901			
宮竹 *	1 549	3 502	西新	7 403	15 437			
中央区	89 961	160 428	原	4 329	10 167			
大名	3 102	4 460	高取	7 503	15 422			
当仁	7 307	13 668	百道	3 215	7 184			
簗子	5 147	7 878	田隈	3 173	7 226			
警固	9 286	15 204	室見	4 743	10 430			

注1) 本表は福岡市教育委員会が公表している「市立小中学校の通学区」に基づき、住民基本台帳に登録された人の住所地を各小学校区に振り分け集計したものです。

注2) 「*」印を付した小学校は、校区が複数行政区にまたがっているため、小学校区単位の数値は本表末尾に合算した値です。

注3) 平成19年4月1日に照葉小学校(東区)と姪北小学校(西区)が開校しています。

2. 人口動態

(1) 自然動態

出生数が2年連続で増加

平成19年（1～12月）の自然動態（出生と死亡の数）は、出生数13,921人、出生率（人口1,000人当たりの出生数）10.14‰（パーミル）、死亡数9,104人、死亡率（同死亡数）6.63‰で、自然増加数は両者の差4,814人、自然増加率（同自然増加数）は3.51‰となっています。

平成18年と比較すると、出生数は666人増加し、2年連続で増加しています。また、死亡数も189人増加し、こちらは6年連続で増加しています。その結果、自然増加数は477人増加で、2年連続の増加となりました。行政区別に見ても、出生数はすべての区で平成18年を上回っています。

7区の中で、東区は出生数（2,773人）、死亡数（1,819人）ともに最も多く、また、自然増加数（954人）も最も多くなっています。

一方、城南区は出生数（1,204人）、死亡数（776人）ともに最も少なく、自然増加数（428人）も最も少なくなっています。

各区の出生率は9～10‰、死亡率は6‰台となっており、区ごとの数値に大きな差異は見られません。（表6・7、図3）

図3 自然増加数, 出生数, 死亡数及び自然増加率の推移

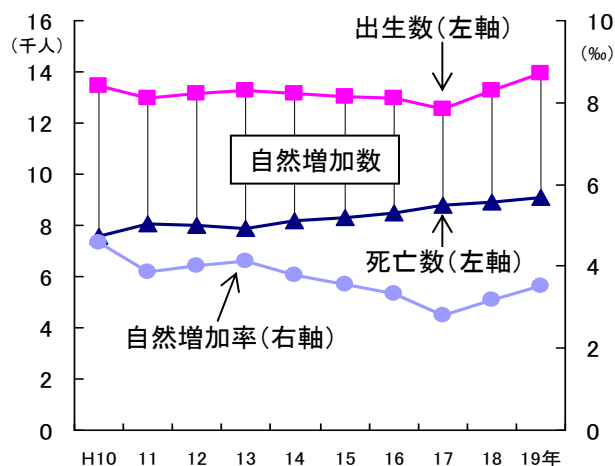


表6 自然増加数, 出生数, 死亡数及び自然増加率の推移

	自然増加数	出生数	死亡数	自然増加率
	人	人	人	‰
平成10年	5 864	13 454	7 590	4.60
11年	4 938	13 000	8 062	3.85
12年	5 186	13 158	7 972	4.02
13年	5 366	13 243	7 877	4.12
14年	4 959	13 135	8 176	3.77
15年	4 706	13 024	8 318	3.55
16年	4 468	12 978	8 510	3.34
17年	3 780	12 542	8 762	2.80
18年	4 340	13 255	8 915	3.19
平成19年	4 817	13 921	9 104	3.51

表7 自然動態

	平成18年			平成19年					
	自然増加数	出生数	死亡数	自然増加数	前年比	出生数	前年比	死亡数	前年比
	人, ‰	人, ‰	人, ‰	人, ‰	%	人, ‰	%	人, ‰	%
福岡市	4 340 (3.19)	13 255 (9.74)	8 915 (6.55)	4 817 (3.51)	11.0	13 921 (10.14)	5.0	9 104 (6.63)	2.1
東区	899 (3.39)	2 658 (10.02)	1 759 (6.63)	954 (3.54)	6.1	2 773 (10.29)	4.3	1 819 (6.75)	3.4
博多区	649 (3.53)	1 962 (10.68)	1 313 (7.15)	753 (4.04)	16.0	2 027 (10.86)	3.3	1 274 (6.83)	△ 3.0
中央区	449 (2.83)	1 386 (8.74)	937 (5.91)	505 (3.15)	12.5	1 469 (9.16)	6.0	964 (6.01)	2.9
南区	723 (2.98)	2 202 (9.07)	1 479 (6.09)	721 (2.97)	△ 0.3	2 392 (9.86)	8.6	1 671 (6.89)	13.0
城南区	312 (2.58)	1 121 (9.27)	809 (6.69)	428 (3.53)	37.2	1 204 (9.92)	7.4	776 (6.40)	△ 4.1
早良区	623 (2.99)	2 008 (9.65)	1 385 (6.65)	726 (3.48)	16.5	2 077 (9.94)	3.4	1 351 (6.47)	△ 2.5
西区	685 (3.77)	1 918 (10.56)	1 233 (6.79)	730 (3.98)	6.6	1 979 (10.79)	3.2	1 249 (6.81)	1.3

注) ()内は、各年9月末現在の人口1,000人当たりの自然増加数, 出生数, 死亡数。

(2) 社会動態（市外移動）

社会増が続くも増加数は減少

平成19年の社会動態（市外との転出入の数）は、転入者数77,277人、転入率（人口1,000人当たりの転入者数）56.29‰、転出者数71,363人、転出率（＝同転出者数）51.98‰で、社会増加数は両者の差5,914人、社会増加率（＝同社会増加数）は4.31‰となっています。

平成18年と比較すると、転入者数は913人減少、転出者数は826人増加し、社会増加数は1,739人減少したものの、社会増（転入者数が転出者数を上回る）の状態が、平成8年以降続いています。

7区の中で、博多区は転入者数（14,989人）が最も多く、転出者数（12,648人）も東区（13,187人）に次いで多くなっているものの、社会増加数（2,341人）は最も多くなっています。

一方、南区は、転入者数（11,376人）、転出者数（11,872人）ともに平成18年から減少し、社会増加数（△496人）が唯一マイナスになっています。

転入率、転出率ともに博多区と中央区の数値が高く、都心部の住民の移動が活発であることを示しています。

各区の自然動態と社会動態の増加率を見

ると、自然増加率は2.97‰～4.04‰の範囲内にあり、区による差はあまりありませんが、社会増加率は△2.05‰～12.55‰と区によって差があり、東区、博多区、中央区は社会増加率が高く、他の4区は自然増加率が高くなっています。（図4、表8）

福岡市の人口の詳細については、福岡市ホームページをご覧ください。

【福岡市ホームページ】

<http://www.city.fukuoka.jp/datafile>

図4 人口動態の構成

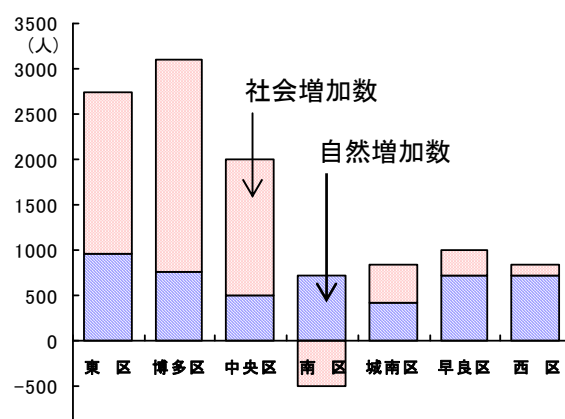


表8 社会動態（市外移動）

	平成18年			平成19年					
	社会増加数	転入者数	転出者数	社会増加数	前年比	転入者数	前年比	転出者数	前年比
	人, ‰	人, ‰	人, ‰	人, ‰	%	人, ‰	%	人, ‰	%
福岡市	7 653 (5.62)	78 190 (57.45)	70 537 (51.83)	5 914 (4.31)	△22.7	77 277 (56.29)	△1.2	71 363 (51.98)	1.2
東区	848 (3.20)	14 031 (52.91)	13 183 (49.72)	1 777 (6.59)	109.6	14 964 (55.50)	6.6	13 187 (48.91)	0.0
博多区	2 553 (13.89)	14 913 (81.16)	12 360 (67.27)	2 341 (12.55)	△8.3	14 989 (80.33)	0.5	12 648 (67.79)	2.3
中央区	2 808 (17.71)	13 335 (84.11)	10 527 (66.40)	1 490 (9.29)	△46.9	12 561 (78.30)	△5.8	11 071 (69.01)	5.2
南区	193 (0.79)	12 188 (50.20)	11 995 (49.41)	△496 (△2.05)	△357.0	11 376 (46.90)	△6.7	11 872 (48.95)	△1.0
城南区	54 (0.45)	5 664 (46.82)	5 610 (46.38)	420 (3.46)	677.8	5 853 (48.24)	3.3	5 433 (44.78)	△3.2
早良区	506 (2.43)	9 715 (46.67)	9 209 (44.24)	269 (1.29)	△46.8	9 496 (45.46)	△2.3	9 227 (44.17)	0.2
西区	691 (3.80)	8 344 (45.93)	7 653 (42.12)	113 (0.62)	△83.6	8 038 (43.82)	△3.7	7 925 (43.20)	3.6

注) ()内は、各年9月末現在の人口1,000人当たりの社会増加数、転入者数、転出者数。